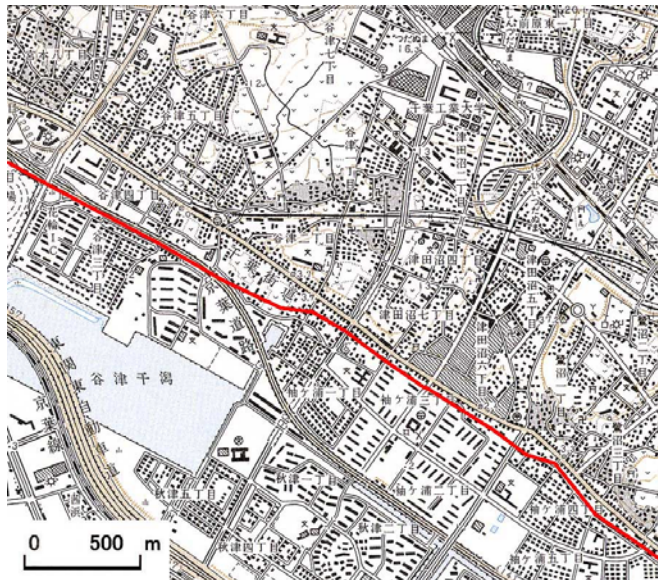


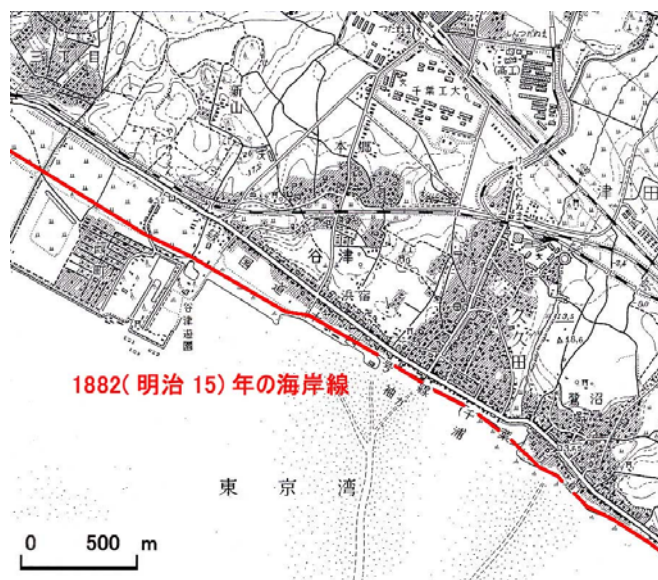
東日本大震災による習志野市埋立地住宅地の被害

千葉県習志野市袖ヶ浦団地 (2011年3月13,14日 橋詰直道撮影)

東京のベッドタウン千葉県習志野市内の埋立地でも液状化が発生し被害が出た。かつての海岸線(汀線)は、現在の国道14号線のすぐ南側にあたる。つまり、この国道以南はすべてかつて遠浅の干潟が広がる海であったが、1963年頃から千葉県企業庁によって埋立てられ、日本住宅公団(現UR)の袖ヶ浦団地(1967年入居開始)や秋津団地さらに香澄団地などの住宅団地等へと変貌した。3.11大震災では、この埋立地の住宅地で液状化が起こった(地形図参照)。特に、袖ヶ浦1,6丁目の一戸建て住宅地や袖ヶ浦2,3丁目の集合住宅では、噴砂を伴う地盤沈下などにより塀や電信柱が傾いたり、水道管の破損や下水道に砂が流入するなどの被害が出た。



習志野市袖ヶ浦周辺の1/2.5万地形図「習志野」
(平成17年更新) 国土地理院発行 赤い線：旧海岸線



60年前の同地域、1/2.5地形図「習志野」
(昭和27年修正測量) 国土地理院発行



習志野市袖ヶ浦5丁目の住宅塀の被害 2011.3.13



習志野市袖ヶ浦6丁目住宅地の被害 2011.3.13



習志野市袖ヶ浦6丁目住宅地の被害 2011.3.13



習志野市袖ヶ浦6丁目住宅地の噴砂被害 2011.3.13



習志野市袖ヶ浦 2 丁目団地で発生した被害
 地下水道管の破損, 水が道路に溢れだし断水となり,
 自衛隊の給水車が連日出動した。 2011.3.14



習志野市袖ヶ浦 2 丁目団地の液状化による被害
 道路が地盤沈下しことで一時は付近は泥の沼と化した。
 2011.3.14



習志野市袖ヶ浦 2 丁目袖ヶ浦保育所脇の噴砂口
 ここでは暗灰色の泥質砂が噴出したの後に茶褐色の砂
 が噴出した。 2011.3.14



習志野市袖ヶ浦 3 丁目団地入口の噴砂と噴砂口
 道路両側の側溝や植込みから大量の暗灰色の泥質砂が
 が噴出した。 2011.3.14



習志野市袖ヶ浦 2 丁目団地の被害
 集合住宅の周囲の地盤が陥没し, 歩道との間にギャ
 ップが発生した。(黄色は 15cm 野帳) 2011.3.14



習志野市袖ヶ浦 3 丁目団地の商業棟入口の被害
 地盤の陥没により建物と地面の間に亀裂やギャップが
 発生した。 2011.3.14